

## 商業音楽科シラバス

科目名	PA実習(PAファンダメンタル)	担当教員名	伊東 次郎	
単位数	120	必修	配当年次	1年次
曜日・時限		教室	9F Shooting Stage	
授業の到達目標	音響の基礎知識を中心にPA機材の正しい操作、結線及びセッティングを習得する。			
授業の内容	講義を中心としながらも 実際に機材を使用して より知識、操作方法等が身に付くよう行う。			
【実務経験】	アスカサウンド代表として関西のイベント、コンサートを手掛ける。			
日程	授業形態	内容		
1週	演習	PAとは(PAの種類、役割、仕事内容等)		
2週	演習	音とは何か(音速、音の三要素)		
3週	演習	ケーブルについて(コネクタの種類、バランス・アンバランス)		
4週	演習	マイクロフォンについて(構造、性質)		
5週	演習	ミキシング・コンソールについてⅠ(ブロックダイヤグラムや操作)		
6週	演習	ミキシング・コンソールについてⅡ(ブロックダイヤグラムや操作)		
7週	演習	パワーアンプについて(入力、出力、消費電力等)		
8週	演習	スピーカーについて(構造、性質、エンクロージャー)		
9週	演習	電気音響の基礎(アンプとスピーカーの接続)		
10週	演習	電気音響の基礎(アンプとスピーカーの接続)		
11週	演習	イコライザーについて(性質と操作方法)		
12週	演習	イコライザーについて(性質と操作方法)		
13週	演習	エフェクターについてⅠ(リバーブ、ディレイ)		
14週	演習	エフェクターについてⅡ(コンプ、ゲート)		
15週	演習	音響システムを使った実演		
準備学習 時間外学習	「PA入門 改訂版」「音響映像設備マニュアル 2019年改訂版」を活用して予習復習しましょう			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	2) 筆記試験 100%		
教材	教科書			
	参考書			
学生への メッセージ	音響をやっていく上で必要な基本的知識を学ぶ授業です。講義が中心ですが しっかり身に付けて下さい。			

## 商業音楽科シラバス

科目名	レコーディング実習(PAベーシック)	担当教員名	井出 賢吾
単位数	120	必修・選択	配当年次
曜日・時限			教室
授業の到達目標	PA エンジニアとしての基礎 音響信号の流れを理解し、各種機材のセッティング、電源の重要性、安全性の確保ができる。現代PAシステムの理解と興味を持たせる。		
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載するPAエンジニアになるために必要な知識やテクニックを実習を通じて学ぶ。		
【実務経験】	OSM卒業生。有限会社 津川プロ代表として、イベント・コンサートなどを手掛ける。		
日程	授業形態	内容	
1週	演習	PA基礎 音とは PAエンジニアとしての心構え/機材について	
2週	演習	PA基礎 音が出るまでのセッティング1/機材の名称 in-outまで	
3週	演習	PA基礎 音が出るまでのセッティング2/プロのエンジニアの意味	
4週	演習	PA基礎 音が出るまでのセッティング3/良い音とは？追求方法について	
5週	演習	マイク スタンド スピーカーについて	
6週	演習	音の伝送方式を理解する 1 アナログ回路のメリット デメリット	
7週	演習	音の伝送方式を理解する 2 デジタル機器へのアプローチ方法	
8週	演習	音の伝送方式を理解する 3 デジタルオーディオネットワークとは	
9週	演習	デジタルオーディオネットワークDante	
10週	演習	アルファ systemを知る/アンプリモート プロセッシングなど	
11週	演習	アルファ systemを知る/アンプリモート プロセッシングなど	
12週	演習	m7clを操作する為に必要な知識など	
13週	演習	m7clを操作する為に必要な知識など	
14週	演習	実技テストへ向けて	
15週	演習	実技テスト・振り返り	
準備学習 時間外学習	「PA入門 改訂版」「音響映像設備マニュアル 2019年改訂版」を活用して予習復習しましょう		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	実技試験100%。	
教材	教科書	ipad	
	参考書		
学生への メッセージ			